

平成25年（2013）11月 入域観光客数概況

11月の観光客数は、51万3,600人
対前年（H24）同月比 +3万500人、+6.3%
～伸びが鈍化するも、11月の過去最高を更新～

入域状況

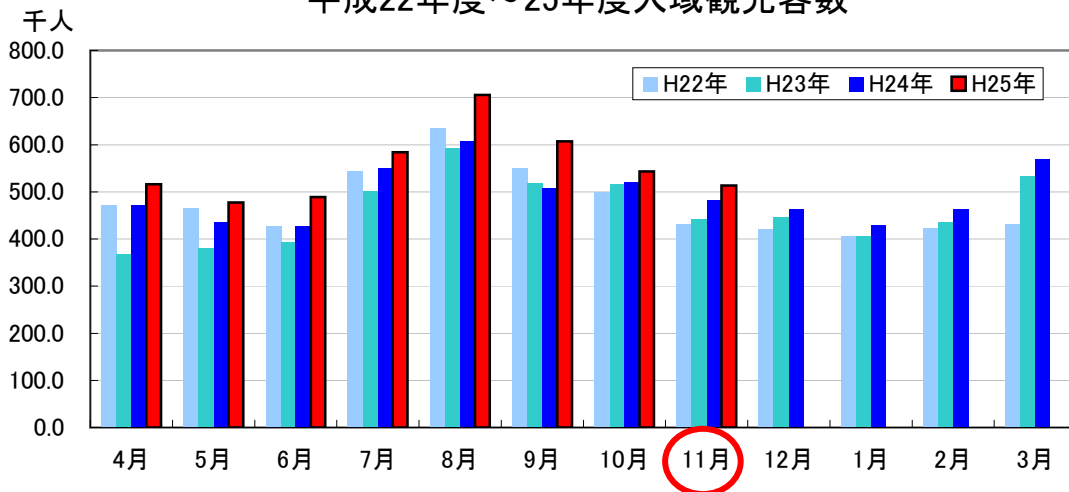
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	480,100 人	468,800 人	+ 11,300人	+ 2.4%	93.5%
外国客	33,500 人	14,300 人	+ 19,200人	+ 134.3%	6.5%
合計	513,600 人	483,100 人	+ 30,500人	+ 6.3%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	480,100 人	468,800 人	+ 11,300人	+ 2.4%	93.8%
外国客	31,600 人	13,300 人	+ 18,300人	+ 137.6%	6.2%
合計	511,700 人	482,100 人	+ 29,600人	+ 6.1%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

11月は、前年下半期から続いた航空路線の拡充が一段落したが、引き続き景況感が上向き、旅行市場全体が活況なことから、前年を上回った。

12月は、民間企業賞与の増加による旅行需要が海外・国内問わず高まっており、沖縄行きの旅行商品及び航空便予約状況も好調で、前年を上回る見込み。

外国客 入域状況

11月は、国内客同様入込が落ち着く時期にあるが、冬期の旅行需要が高い韓国、旅行需要が安定している香港からの入込を中心に好調に推移した。また、上海発クルーズ船が寄港し、中国人観光客も増加した。

12月は、冬期の旅行シーズンを迎える韓国からの入込が本格化すること、また、3月まで定期的に中国人向けクルーズ船寄港が予定されていることから、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	239,500 人	235,100 人	+ 4,400人	+ 1.9%	49.9%
関西方面	85,700 人	75,200 人	+ 10,500人	+ 14.0%	17.9%
福岡方面	63,800 人	66,900 人	△ 3,100人	△ 4.6%	13.3%
名古屋	39,100 人	37,200 人	+ 1,900人	+ 5.1%	8.1%
その他	52,000 人	54,400 人	△ 2,400人	△ 4.4%	10.8%
合計	480,100 人	468,800 人	+ 11,300人	+ 2.4%	100.0%

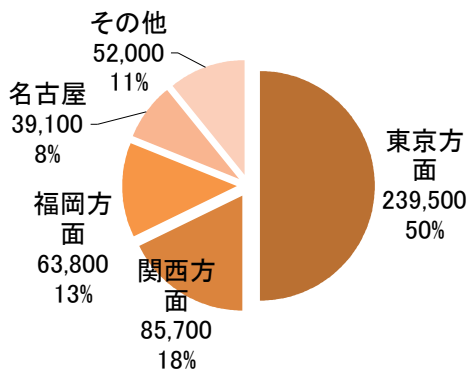
※国内海路客 2,700人を含む(東京:100人、関西:100人、鹿児島:2,500人)

外国客 国籍別入域状況

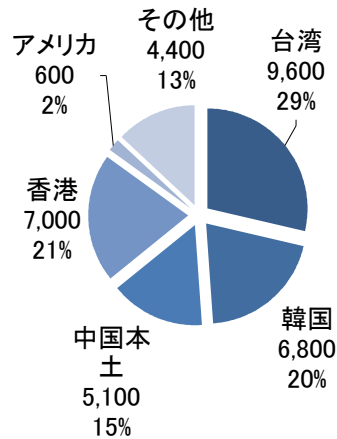
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	9,600 人	9,600 人	5,100 人	+ 4,500人	+88.2%	28.7%
韓国	6,800 人	6,800 人	2,600 人	+ 4,200人	+161.5%	20.3%
中国本土	4,600 人	5,100 人	700 人	+ 4,400人	+628.6%	15.2%
香港	7,000 人	7,000 人	2,000 人	+ 5,000人	+250.0%	20.9%
アメリカ	600 人	600 人	400 人	+ 200人	+50.0%	1.8%
その他	3,000 人	4,400 人	3,500 人	+ 900人	+25.7%	13.1%
合計	31,600 人	33,500 人	14,300 人	+ 19,200人	+134.3%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	9,600 人	9,600 人	+88.2%	32.4%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	6,700 人	6,700 人	+157.7%	22.6%	100 人	100 人	-	2.6%
中国本土	2,600 人	2,600 人	+333.3%	8.8%	2,000 人	2,500 人	+2400.0%	64.1%
香港	7,000 人	7,000 人	+250.0%	23.6%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	600 人	600 人	+100.0%	2.0%	0 人	0 人	皆減	0.0%
その他	3,000 人	3,100 人	+158.3%	10.5%	0 人	1,300 人	△43.5%	33.3%
合計	29,500 人	29,600 人	+150.8%	100.0%	2,100 人	3,900 人	+56.0%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、団体旅行、web商品利用中心の個人旅行ともに好調に推移した。10月から引き続き修学旅行、MICEのシーズンであることから、特に団体旅行は好調である。12月は、羽田-石垣路線の増便、バニラ・エアの成田路線就航(再開)により好調に推移する見込み。現時点で、年末年始の航空便予約状況は前年を上回っており、民間企業の賞与増も追い風となっている様子。

大阪

11月は、旅行商品の販売状況も良く、那覇マラソン(12月1日)参加者の入込もあったため、好調に推移した。年末年始の休暇が長く、入込時期が分散する傾向にあるが、全体として旅行商品の受注は前年以上に増えており、また、年末年始以外についても、2月までは好調に推移する見込み。

福岡

11月は、全九州小学生バドミントン大会が沖縄で開催されたものの、全日空の利用機材小型化の影響を受け、月全体で前年を下回った。ビジネス需要は増加している様子。12月の3連休や年末年始の旅行商品・航空便の予約状況は前年以上となっており、好調に推移する見込み。

名古屋

11月は、提供座席の拡充傾向が落ち着き、入込は微増となった。下旬にANAが企画したB787を利用したツアーが人気であった。12月は、下旬の3連休及び年末年始は航空便予約状況が好調で、特に年末年始には中部-石垣路線の機材大型化が予定されており、ファミリー層を中心に前年以上の入込となる見込み。星野リゾートを利用したツアーが人気。

台湾

11月は、スタークルーズの運航がなく、夏期に比べて入込が落ち込んでいるが、航空路線拡充の影響により前年以上の結果となった。スポーツイベント参加やリゾートウェディングが好調。12月以降、高雄-那覇間のチャーター便が予定されており、春節時期を中心に好調に推移する見込み。高額商品も販売され、高品質の沖縄観光商品の需要が高まっている。

韓国

11月は、アジアナ航空の機材大型化継続及び釜山路線の就航に加え、航空運賃が低価格で販売されたことから、個人旅行を中心に好調に推移した。12月以降、冬期＝沖縄ゴルフのイメージが定着し、価格帯も様々なゴルフ商品が人気。12月末から2月中旬の冬休み時期においては、前年に比べてチャーター便も増加することから、前年以上に推移する見込み。

中国本土・北京

11月は、例年入込が落ち着く時期ではあるが、前年不調の反動で大幅に増加し、平成23年の沖縄数次ビザ発給の開始直後の水準にまで回復している。12月以降も、日中間の関係に大きく変化がなければ、しばらく安定して前年比増が続く見込み。

中国本土・上海

11月は、上海発クルーズ船(コスタ・アトランティカ)が2度寄港、前年不調の反動もあり大幅な増加となった。12月以降も上海発のクルーズ船寄港が予定されており、クルーズ客を中心とした団体観光が増加する見込み。また、現時点での春節時期の航空便予約状況も好調である様子。

香港

11月は、紅葉シーズンのため沖縄以外の地域に注目が集まったが、前年に比べて提供座席が増えたため落ち込みは小幅で推移した。12月もオフシーズンではあるが、円安による訪日旅行人気の継続、また、航空会社の格安航空券販売により需要が喚起され、順調に推移する見込み。